

白血病後発薬値下げ

他社の半額 普及、患者負担減狙い

滋賀の製薬会社

高額な白血病治療薬の後発医薬品(ジェネリック医薬品)の普及が進まないため、大原薬品工業(本社・滋賀県甲賀市)は、自社のジェネリックを他社の半額程度に値下げした。

この薬は、慢性骨髄性白血病の患者が主な対象。2001年に登場した先発品「グリベック」は、同病の5年生存率が90%を超える特効薬だが、原則として生涯飲み続ける必要があるため、患者の経済的な負担が問題

になっている。

グリベックのジェネリックは14年に発売。薬価は先発品の半額ほどで、現在は17社が扱うが、普及率は約1割にとどまる。患者が支払う医療費の自己負担は、収入などに応じて上限が決まっており、ジェネリックを選んで先発品と負担額がほぼ変わらないためだ。

この状況を変えようと、同社は卸値を下げ、国の定める薬価が今月から他社の

半額程度になった。こうした取り組みは異例。同社に

新燃岳の山体 断続的に膨張

噴火から半年

宮崎、鹿児島県境の霧島

よると、年収約370万、770万円の70歳未満の人が標準的な処方を受けた場合、年間の自己負担額は先発品の約42万円に対し、約29万円になるといふ。

活動は全体として活発で、専門家は「今後、住民避難が必要となる本格噴火が起こるおそれもある」と指摘している。

拉致被害者の家族 駐日米大使と面会 飯塚さんら協力求める 6月初旬までに開催予定の米朝首脳会談を前に、北朝鮮による拉致被害者の家族らが10日、ハガティ駐日米大使と面会し、被害者が帰国できるよう米朝も尽力してほしいと求めた。ハガティ氏は「トランプ大統領に会って伝える」と述べた。

連山・新燃岳(1421m)で一連の活発な噴火が始まってから11日で半年を迎える。気象庁は「規模の大きな噴火の兆候は今のところない」としているが、火山

新燃岳は2011年1月に約300年ぶりとなる大規模な噴火を起こし、大量の火山灰を放出した。この噴火は同年9月に止まったが、17年10月11日にまた噴火を始め、噴火警戒レベルが3(入山規制)に引き上げられた。

面会は東京都内の米大使公邸で約1時間行われた。1978年に拉致された田口八重子さん(当時22歳)

元副社長 津波対策を保留

東電公判、担当社員が証言

東京電力福島第一原発事故を巡り、業務上過失致死

長期評価に基づき、最大15

の勝俣恒久・元会長(78)ら旧経営陣の第5回公判が10日、東京地裁(水戸建一裁

・7月の津波が襲来する可能性があると試算結果を武藤被告に報告。だが、武藤被告は翌7月の社内会議で「長期評価を再見する」

全国の書店員の投票で選ばれた「2018年本屋大賞」(同賞実行委員会主催)が10日発表され、大賞は辻村深月さん(38)の「かがみの孤城」(ポプラ社)に決まった。

本屋大賞「かがみの孤城」

辻村さん「読んで気持ち伝えて」



2018年本屋大賞を受賞し笑顔を見せる辻村深月さん(10日午後、東京都港区で)＝山谷遼平撮影

ある共通点を持つ中学生7人が、鏡でつながった不思議な城で出会い、成長していく姿をつづるファンタジー。辻村さんは「本屋大賞はバトンだと思っています。全国の書店から手にとってくださる方にバトンとして渡す。今はつつむいて誰かが、『かがみの孤城』を読んで、次の誰かを救いたい」と

顔を上げて、気持ちを伝えてくれたらうれしい」と喜びを語った。

2位は、将棋をテーマにした柚月裕子さん(49)のミステリー「盤上の向日葵」(中央公論新社)。翻訳小説部門は、ステファニー・ガーバー著「カラヴァル 深紅色の少女」(西本かおる訳、キノブックス)だった。